

# 第1回 SPARC Japan セミナー2017

「図書館員と研究者の新たな関係: 研究データの管理と流通から考える」

## 開会挨拶/趣旨説明

能勢 正仁

(京都大学大学院理学研究科)



### 能勢 正仁

1998年に京都大学理学研究科で博士(理学)取得後、米国ジョンズホプキンス大学でポストドクトラルフェローとして3年間研究を行う。2001年帰国、現職。専門は、超高層物理学、地球電磁気学。主な研究テーマは、地磁気変動・脈動、内部磁気圏の高エネルギー粒子ダイナミクス、サブストーム、地磁気指数など。最近は、科学データへデジタルオブジェクト識別子を付与する活動にも積極的に関わっている。



日本の機関リポジトリは、公開されているものだけでその数は700を超えており、世界でも類を見ないくらい大きな規模に成長しています。

図1のグラフは、機関リポジトリの公開数の推移です。2017年5月時点で789となっており、たくさんのリポジトリが日本では公開されています。

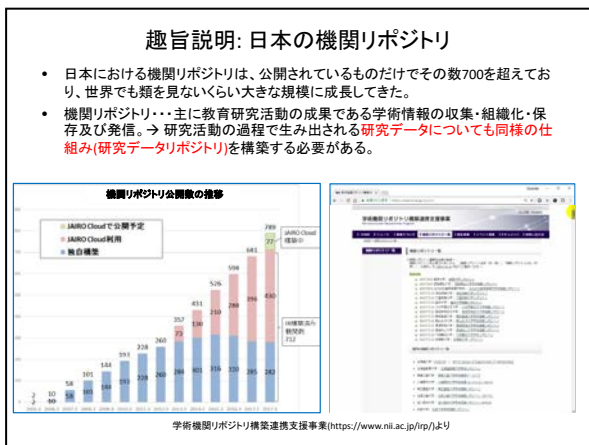
機関リポジトリは、現在では、教育研究活動の成果である学術情報の収集・組織化・保存および発信という役割を担っています。学術成果である論文や研究発表スライドなど、主に文書を保管しています。

### 研究データリポジトリの必要性

次のステップとして、研究活動の過程で生み出される研究データについても、同様の仕組みを構築する必要がありますと考えられます。これを「研究データリポジトリ」と呼びます。日本は、約1,200ある大学のうち、約7割がリポジトリを持っているので、次のステップに進む上で非常に有利だと私は考えています。

とはいえ、研究データリポジトリにすぐ推移できるかという点、まだ壁があります。研究データリポジトリを取り巻く図書館員と研究者の現状を私が理解できる範囲でまとめたものが図2です。図書館員は、既に機関リポジトリの運営の経験がある、機関リポジトリ推進委員会の活動を通じたノウハウを持っている、オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)が新たに始まったなどの理由から、研究データリポジトリに対する準備は進んでいます。

一方、研究者は、研究データリポジトリにネガティブなイメージを持っています。研究公正のために研究データをきちんと管理するようという上からの押し付けがあったり、これはまだ日本では一般的ではあり



(図1)

ませんが、欧米では既に、研究計画書と合わせて、得られたデータの管理方法を定めたデータ・マネジメント・プラン（DMP）を提出することが一般的になっており、さらに書類が増えるというイメージがあったりします。

研究データリポジトリといっても、これが実際に稼働している大学は現実にまだないので、そうすると研究者は、自前のデータベースを持つ、自前のサーバー上でデータを管理するという手続きになってきます。かつ、そのためにメタデータをつくり、それを管理しないといけないという仕事が増え、結局、研究、教育、雑務に忙しくて、データのオープン化まで手が回らないという状況にあると考えられます。

研究データリポジトリができて、図書館員の側で研究データを管理することが可能になったとしても、まず研究データとは一体どういうものか、どう扱うのかというのが共通の疑問点であると思われます。

また、図書館員とお話すると、共通して、「研究者のニーズが本当にそんなにあるのか」「大学図書館に関わり得る余地があるのか」という疑問が呈されます。

研究者と図書館との関わりは論文や図書がやはり中心で、一般的な研究者の認識として、データをオープンにする際に図書館員との連携が頭に浮かばないという問題や、データをオープンにするインセンティブがないという問題もあります。

「インセンティブがない」、私はこれを一つキーワ

ードと考えています。インセンティブがないので、データリポジトリが進んでいくにはいろいろな障壁があると思われます。こういったことから、図書館員と研究者の間で、それぞれどういうニーズがあって、どういう協力関係ができるかということの対話の場が必要だと考えました。以上のような経緯で今回の企画をさせていただきました。

### 図書館員と研究者との対話

今回は、図書館員と研究者の置かれている状況について多くのことをご存じの登壇者の先生方にお話をさせていただきます。

倉田先生には、研究者が抱えている現状について、広い範囲の話をさせていただきます。

大澤先生には、研究者から図書館員に対して、どういうアプローチ、問い掛けができるかというお話をさせていただきます。

休憩を挟んだ後は、特に JPCOAR に焦点を当て、西菌さんと片岡さんから JPCOAR の活動について、現在、図書館員の間でどういう話し合いが進んでいるか、ご報告を頂きたいと考えています。

両者の対話・協働が必要ということで、最後にいつものパネルディスカッションではなく、全体議論の時間を30分用意しています。前半の約15分は登壇者への質問、後半の約15分は特に研究者への質問という形でお願いしようと思っています。

**趣旨説明: 研究データリポジトリ**

- 研究データリポジトリを取り巻く図書館員と研究者の現状。
- 両者の対話・協同が必要。

機関リポジトリ運営の経験  
機関リポジトリ推進委員会  
JPCOAR (オープンアクセスリポジトリ推進協会)  
研究データは、どういうもの? どう扱うのか?  
研究者からのニーズがある? 大学図書館が関わらる余地がある?

研究データリポジトリ  
データマネジメント計画 (DMP)  
データベース・メタデータ管理  
研究公正  
研究、教育、雑務に忙しくて、データのオープン化にまで手が回らない。  
図書館員との協同に考えが至らない。  
インセンティブがない!

資料提供: いらすとや(<http://www.irasutoya.com/>)

(図2)

**趣旨説明: 全体議論について**

- 各講演の後に10-15分程度の質問時間を設けています。
- 16:40-17:10に、全登壇者への質疑応答や、全体を通じての議論の時間を予定しています。

時刻	内容	講師
13:00-13:15	開会挨拶	佐藤 正
13:15-13:30	研究データリポジトリの現状と大学図書館員へのアプローチ	倉田 浩二
13:30-13:45	研究データリポジトリの現状と大学図書館員へのアプローチ	大澤 洋
13:45-14:00	研究データリポジトリの現状と大学図書館員へのアプローチ	西菌 真由美
14:00-14:15	休憩	
14:15-14:30	研究データリポジトリの現状と大学図書館員へのアプローチ	片岡 真由美
14:30-14:45	研究データリポジトリの現状と大学図書館員へのアプローチ	西菌 真由美
14:45-15:00	研究データリポジトリの現状と大学図書館員へのアプローチ	片岡 真由美
15:00-15:15	研究データリポジトリの現状と大学図書館員へのアプローチ	西菌 真由美
15:15-15:30	研究データリポジトリの現状と大学図書館員へのアプローチ	片岡 真由美
15:30-15:45	研究データリポジトリの現状と大学図書館員へのアプローチ	西菌 真由美
15:45-16:00	研究データリポジトリの現状と大学図書館員へのアプローチ	片岡 真由美
16:00-16:15	研究データリポジトリの現状と大学図書館員へのアプローチ	西菌 真由美
16:15-16:30	研究データリポジトリの現状と大学図書館員へのアプローチ	片岡 真由美
16:30-16:45	研究データリポジトリの現状と大学図書館員へのアプローチ	西菌 真由美
16:45-17:00	研究データリポジトリの現状と大学図書館員へのアプローチ	片岡 真由美
17:00-17:15	研究データリポジトリの現状と大学図書館員へのアプローチ	西菌 真由美

研究者への質問

- 研究データリポジトリについて、
  - 研究者のニーズがどこにあるのか?
  - 大学図書館が関わらる余地があるのか?
  - そもそも研究者は図書館は関わってほしいと思っているのか?

(図3)

図書館員は、研究者はリポジトリに対してどのようなニーズがあるのか、大学図書館が関わり得る余地があるのか、そもそも図書館に関わってほしいと思っているのかということを共通の疑問としていつもお持ちです（図 3）。ですから、最後の時間に研究者の方々から自発的に手を挙げていただいて、図書館員の方がたくさんいらっしゃるこの場で、ご自身のお考えを発言していただけると幸いです。